りょうかわ



学校だより 平成31年4月19日号 新潟市立両川小学校

実直なこと、素直なこと

校長 中村 雅芳

入学式から約2週間が過ぎました。1年生から6年生まで総勢116名が、両川小学校の児童として、生き生きと教育活動に取り組む姿が見られます。授業の中で積極的に発言し、大いに間違え、たくさん友達と話し合い、試行錯誤しながら学んでいってほしいと願っています。

その基本的な心構えとして、私は「実直さ(誠実で陰日向のないこと)」と「素直さ(性格が穏やかで真っ直ぐなこと)」を大事にしたい。

例えば、縦割り清掃が始まった日に、右の光景を目にしました。晴れてはいましたが、肌寒さを感じる中、冷たい水で雑巾を絞り、学校の玄関を全員で、熱心に水拭きしていたのです。弱音や文



【玄関外を雑巾がけする姿】



【ボロボロになった雑巾】

句を言う人など一人もいません。「玄関を美しく磨き上げたい」という純粋な思いだけで、 心を込めてひたすら磨き続けていたのです。水拭き後に見せてもらった雑巾からは、心の 清らかさが伝わってきました。

例えば、毎朝、子どもたちは登校後すぐに教務室へ立ち寄り、「先生方、おはようございます」と明るい挨拶をします。次から次へと訪れ、教務室は「おはようございます!」に満ちあふれます。入学したばかりの1年生には、上級生のお兄さん、お姉さんが優しく丁寧に教える姿があります。もう何年も続いている習慣だと聞き、心が温かくなりました。

純粋な思いをもって行動できる姿、すなわち「実直な姿」は、これまで子どもたちを育んできた家庭教育、地域教育、学校教育の賜物であり、みんなで磨き上げ、創り上げてきた両川小学校の「宝」です。



校長室前の掲示板です。学校便り4月9日号でもお伝えしたとおり、始業式では子どもたちに「努力のカギを、みんなから手に入れてほしい。そのためには、間違うことを恐れず、新しいことに挑戦する勇気をもち、行動してほしい。どんなことでもいいので、努力して、できるようになったことがあれば、お昼休みに、校長室まで披露しにきてほしい!」と呼び掛けました。その結果が、上記の掲示板です。

4月18日(木)現在、校長室を訪ねた児童はのべ30名を超えました。出張等があり、私が校長室にいられたのは4日間しかありませんでしたが、毎日、多くの訪問者を迎えました。正直、これほど反響があるとは思いませんでした。子どもたちがいかに「素直」であるかの証です。そして、この素直さも、両川小学校の「宝」です。

今までの自分と違った自分に、誰もが変われる可能性をもっています。「変えよう!」と思ったときが、変われる「チャンス」です。「チャンス」「チャレンジ」「チェンジ」を合い言葉に、子どもたちの成長を全職員で促していきます。どうか、ご家庭や地域でも、子どもたちの「チャレンジ」を後押ししてあげてください。「実直」で「素直」な両川小学校の子どもたちなら、大きく大きく成長していけるはずです。

成長するのは、子どもたちばかりではありませんね。大人も負けていられません。



【桜もそろそろ・・】